

ロレアルの社会貢献活動「HIV/ エイズ予防教育活動」で美容師の力がエイズ問題を変えていく

エイズは、正しい知識があれば予防できる病気。しかし、日本は先進国であるにも関わらず、1,000人に1人しかHIV検査を受けていなく、1日に4人以上がHIVに感染している。この状況を改善すべく、ロレアルは「HIV/ エイズ予防教育活動“HAIRDRESSERS AGAINST AIDS”」(以下、HAA)を推進。この活動に賛同する各界のメンバーに、日本の問題点やHAAの意義について本音で語ってもらった。

山室一幸 (以下、山室) : エイズは、ファッションやビューティの世界では、身近で深刻な問題です。1980年代後半には、世界的なデザイナーやアーティストがエイズで亡くなったニュースが、連日のように入ってきました。今、多くのブランドがさまざまなCSR(社会貢献活動)を行っていますが、ロレアルはファッション&ビューティ業界の中でも、特に意識が高い企業です。美容師のネットワークを使ってHIV/ エイズの正しい知識を広げていくという活動は、非常に新しく興味を持ちました。ただ、美容室でお客さまに話すには、何かきっかけが必要ですよ。

高橋和義 (以下、高橋) : 12月1日の「世界エイズデー」が、もっと一般に浸透していれば良いのですが……。たとえば、12月1日に来店されたお客さまに赤いエクステを1本つけるとか、美容室ならではのキャンペーンができればいいと思います。美容師がサロンで社会貢献に参加できるのは素晴らしいことだし、美容師の地位向上にもつながると思うので、積極的に参加して欲しいと思っています。

ロレアルが持つ、200万人の美容師ネットワークそのエネルギーを予防教育活動へ

山室 : ところで、先進国の日本でHIVの感染者数が増えてしまっていることについて、どうお考えですか？

安倍昭恵 (以下、安倍) : 日本から遠く離れたアフリカで感染者が多い病気なので、意識が遠いのでしょう。厚生労働省からも話を聞いたのですが、エイズは未だに「ゲイの病気」という認識が強く、「一般の私たちには関係ない」という意識があるそうです。それに「増えているといっても、数的には少ない」という意識もあると思います。

山室 : 当時、厚生労働省が取り組んでいた啓蒙活動では、足りなかった部分はあったでしょうね。



山室一幸 / 「WWD ジャパン」 「WWD ビューティ」編集長

安倍 : そうですね。厚生労働省からの資料を見ると、かなりの予算を使っているんですよ。一方ロレアルは、少ない額でこれだけの成果を挙げている。近いうちに、国の政策とロレアルの活動が一体化すればいいかなと思っています。

山室 : それができたら素晴らしいですね。美容師のネット

ワークは、世界でどのくらいですか？

ロレアル広報 : ロレアルは、世界に200万人の美容師のネットワークを持っています。

山室 : このネットワークって、すごいエネルギーを持っていますよね。HAAは、そうしたエネルギーを社会貢献の方向に導くという点で、画期的な活動だと思います。

ロレアル広報 : 山室さんや高橋さんは意識が高いので「すごく良い活動だね」と言ってくれますが、男性には抵抗を感じる方も多いようです。女性の方が「すごく良いことだからお客さんに伝えるわ」と、すぐに行動を起こしてくれますね。ですので、美容師さん(大多数が女性)を通じて、お客さまである女性がまず知識を得て、当事者意識を持つということは、とても意味のあることだと思います。

高橋 : ただ、啓蒙活動を行なうにあたって気になるのが、年齢層が若いほど、自己防衛意識が低下していると感じられることです。私たちは最初にエイズを認識したとき、「潜伏期間は長い、発症したら死に至る」と聞きました。けれど今の若い人は「薬を飲んでいれば正常な生活ができる」と考えている。「空気感染しない」という知識はあるけど、恐怖心は悪い意味で薄らいでいますね。

安倍 : 私も「死ぬ病気じゃないから」と言われました。そういう認識が広まっているのは怖いですね。

山室 : 誤った知識は、差別につながる可能性もありますよね。これも啓蒙していかないと。

安倍 : 私がエイズ救済に関心を持ったのは、南アフリカでエイズ患者の施設を訪問したのがきっかけです。エイズの母親と、母子感染した子どもたちがたくさんいました。数年後には死んでいくという子たちで……。その後、タイの施設にも行きました。そこでは亡くなった方たちの骨を麻袋に入れて高く積み上げていて、胸が痛みました。患者も入院しているのですが、ごく普通に、笑って話しかけてくれるんです。南アフリカでは末期の方が多かったのですが、タイでは一見健康に見える人がたくさんいて、ハグもしてくれる。正直、最初は「えっ」と思いましたが、普通なのだとそこで初めて感じて……。やっぱり啓蒙教育だと思います。でも患者と知っていれば対応できますが、実際に隣にいたらどうなのかということ、まだ自分としてはわからないですね。

山室 : 共存できるということの啓蒙が必要なんですよ。

安倍 : エイズというと、血液感染や母子感染もありますが、自分の責任を問われるところもありますよね。

山室 : 自己責任論になりがちですね。でも教育によってHIV/エイズの問題を身近なことで認識させていかないと、先進国でHIV感染者が減らな



ZACCの高橋代表(右)は昨年、全国的美容師に影響のあるヘアアーティストとして、「HAAアンバサダー」に選ばれた。そして昨年12月1日の世界エイズデーには、HAAでパートナーシップを組むユネスコ本部を視察訪問した

いというのは大きいですよ。

ヘアサロンで内面からきれいになるために自分の体や社会問題に関する正しい知識を

山室 : 話は戻りますが、なぜ今ラグジュアリーブランドがCSRを行なうかというと、ラグジュアリー意識が物質的なところから、倫理観などのメンタル的な豊かさへ向かっているからだと思います。ルイ・ヴィトンがCO₂削減に、グッチやアルマーニもHIV/エイズ救済に取り組んでいます。この流れの中、HAAのように、美容室で「内面からきれいになるために、自分の体や社会問題にも正しい知識を持ちましょう」という提案を行なうことは、非常に効果的だと思います。

安倍 : 今求められているのは“モノ”ではなくて“付加価値”ですよ。人の意識も変わってきて、人とのつながりを大事にする世の中にならなくていいかな。そうした中で、サロンという「密なコミュニケーションが図れる場所」から広めていくというのは、これからの啓蒙活動のモデルになっていく気がします。そんな、美容師さんとお客さんの関係性は、皆が求めているものかもしれない。

高橋 : 第三者の、一番いいポジションにいるのではないのでしょうか。

山室 : コツコツと築いてきた信頼感をもって、お客さんに正しい知識を伝える。そんなことができるのは、本当に美容師さんだけだと思います。素晴らしい取り組みですね。

ロレアル広報 : そうですね。

私もこの活動を始めてみて、美容師さんがお客様に対して持つ影響力の高さに、改めて驚きました。そんな美容師さんに、「社会貢献は人のためにやることだけど、すごく自分が豊かになると気付きました」と言われたときは、本当に嬉しかったですね。



高橋和義 / ヘアサロン「ザック(ZACC)」代表



安倍昭恵 / 衆議院議員・安倍晋三(第90代内閣総理大臣)夫人

現在、世界には約3,300万人ものHIV/エイズ感染者・患者がいるが、その60%が感染に気付いていない。日本では、2010年のエイズ新規患者数は453人(新規HIV感染者は1,050人)で、厚生労働省は新規エイズ患者数が過去最高に達したことを発表した(2011年2月)。しかし、エイズウイルス抗体検査受診者数は、2年連続で減少している。まずはそうした現状を知ってもらい、当事者意識を持ってもらうことが大切だ。そのファーストアプローチが、信頼を寄せる美容師、通い慣れた美容室で行なわれることは、女性たちに大きな安心感を与えるだろう / WWD ビューティ編集部

美容師が伝える「HIV/ エイズ予防教育活動」とは

「HIV/ エイズ予防教育活動(HAA)」とは、ロレアルがグローバルに行なっている、世界30カ国130万人の美容師が参加する社会貢献活動。美容師がサロンの顧客に対して、リーフレットなどを用いてHIV/ エイズ予防のための正しい知識を伝えるという活動だ。

美容室で顧客に配るリーフレット